

キンモクセイ



南極に行ってみよう!

3日に「南極教室」を実施しました。

この取組は、日本国内の児童・生徒が南極・昭和基地で活動を行っている南極地域観測隊員とリアルタイムで交信することにより、地球環境や地球の歴史、さらには宇宙の謎にまで迫る南極観測の現在を知ってもらい、南極を通じて地球や宇宙のことを考えてもらうことを目的として2004年に開始したもので、隊員のゆかりのある学校で開催している事業だそうです。



「南極教室」は約20年の歴史がありますが、その間熊本県内の学校で行われたのは本校で3回目ということで、本当に貴重な経験をすることができました。と言いますのも、本校の2年と4年に在籍している松本ゆいとくとあいかさんのお父様の拓也さんが、現在「第65次南極地域観測隊」の越冬隊員として派遣されているという縁があったからです。それがなかったら、我々も「南極教室」の存在自体も知ることはありませんし、南極を身近に感じることもなかったと思います。

当日は、南極昭和基地（時差は6時間）、国立極地研究所、本校の3か所を衛星回線をつなぎ、基地の中の様子や屋外の様子、仕事や生活の様子、隊員へのインタビュー、事前質問への回答、会場からの質問への回答など盛りだくさんの内容で、体育館は終始子供たちの感動や驚きの声で溢れていました。特に、ペンギンやオーロラ、シャボン玉が凍る映像は我々職員も思わず声が出てしまいました。その中でも、一番の歓声が上がった場面は、「南極教室中に屋外に出したカップ焼きそばは凍るか」という実験の結果発表の時でした。

教室開始の時に、松本隊員が熱湯を注いで作り味見をしたカップ焼きそばでしたが、それが教室終了時には見事にカッチカチに凍っており、それにかぶりつこうとした別の隊員は全く食べることができませんでした。予想が当たった子もそうでなかった子も、その結末に一喜一憂し、体育館は大きな歓声で沸きました。

そんな楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後に松本隊員から「観測隊員になるために一番必要なもの」についての話がありました。27名の隊員からなる越冬観測隊。その一人一人が必ず持っているものは「優しさ」だそうです。人に対してはもちろんのこと植物や動物を含めた地球全体に対しても。そんな素晴らしいお話を聞き、「南極教室」は終了しました。

またとない機会を与えてくださった国立極地研究所の方々や昭和基地の隊員の皆様、そして本校の保護者でもある松本隊員に感謝です。本当にありがとうございました。いつの日か、この「南極教室」に参加した子供たちの中から「南極に行ってみよう」と観測隊員に応募し、派遣されることになれば、ぜひ「南極教室」を開催してほしいと思います。

※ 次号で、子供たちの感想をご紹介します。